

## 前年同月比大幅増加なれど、前々年同月比は 100 に達せず・・日塗工

### 業況観測アンケート 4 月分

- 公開日時: 金曜日 - 21 5 月 2021

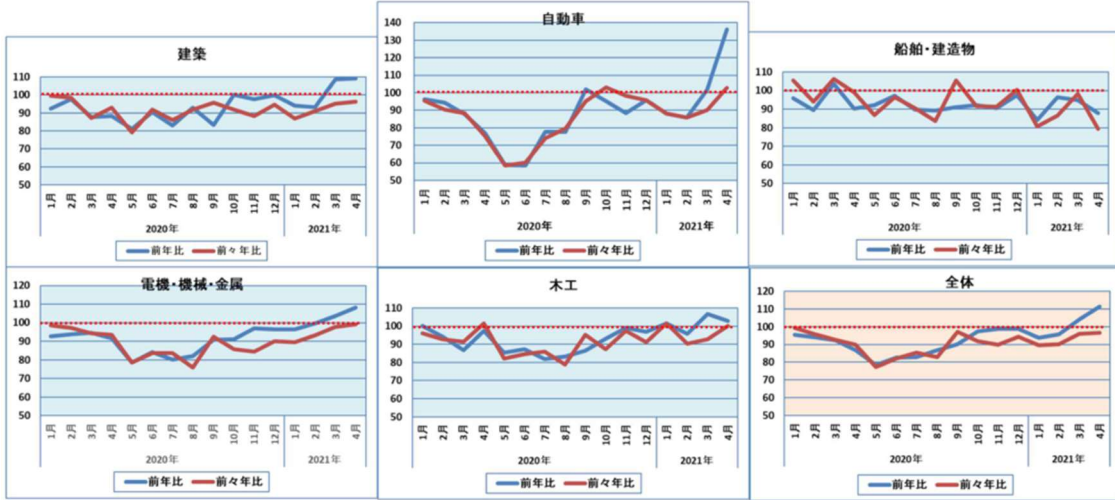
昨日、日塗工から業況観測アンケート 4 月分の結果を受領しました。それによると 4 月の前年同月比は販売数量が 108.6, 金額が 111.5 という高い数字でした。まずは、最近 16 カ月の需要分野別前年同月比一覧表をご覧ください。

#### 日塗工業況観測アンケート前年同月比2020年4月～2021年4月

前年同月比	金額	建築外装	自動車	船舶・ 構造物	電機・機 械・金属	木工	全体
2020年	4月	88.3	75.5	90.2	91.6	97.4	86.7
	5月	81.1	58.4	92.1	78.5	85.5	78.3
	6月	90.4	60.3	97.3	84.3	87.3	82.6
	7月	83.0	73.9	89.8	80.3	81.9	82.8
	8月	92.9	79.8	89.3	82.0	83.2	86.8
	9月	83.3	95.2	91.0	90.8	86.4	90.3
	10月	100.2	103.1	92.2	91.2	93.1	97.4
	11月	97.6	98.4	90.5	96.9	99.2	98.9
12月	99.8	102.0	97.6	96.4	97.0	98.7	
2021年	1月	94.0	92.3	84.2	96.5	101.5	93.8
	2月	93.1	94.9	96.5	99.6	95.9	95.8
	3月	108.5	101.8	94.8	103.6	106.8	104.0
	4月	109.1	136.3	87.9	108.1	102.8	111.5
	前々年比	96.3	102.9	79.3	99.0	100.1	96.7

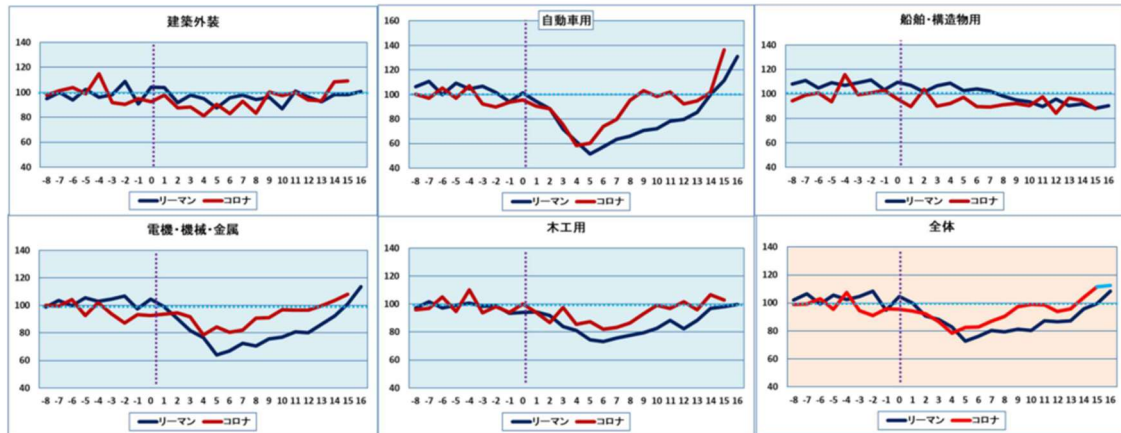
このような高い数値になったのは自動車が金額で 136.3, 電機・機械・金属が 108.1, 建築が 109.1 と軒並み高い数字を記録した分野が多かったことによりますが、実はここが前年同月比の怖いところなのです。前年同月、すなわち 2020 年 4 月がどんな状態だったかと思えば、第 1 次緊急事態宣言が出され町から人が消えた月であり工業生産が著しく落ち込んだ月であったわけです。2020 年 4 月の自動車は 75.5、電機・機械・金属は 91.6、建築は 88.3 とかなり低水準であったわけで、この前年価をもとにして多少高い数値でもはたして本当に平年以上なのかは判断できません。ということで、前々年同月比も計算してみました。上の表の一番下に載せていますが、なんと前々年同月比では、自動車と木工以外は 100 に達しないのです。つまり見かけの数字は良くても実質は平年値以下ということです。前年同月比が、基準足りうるのはあくまで平時の話であり、非常時には基準足り得ないのです。前年同月比と前々年同月比の比較を下に示します。

### 日塗工業況観測アンケート前年同月比と前々年同月比の比較



昨年の10月以降、前年同月比と前々年同月比の乖離が認められる傾向にありましたが、前年同月比の基準が4月になるに至り大きく乖離するようになりました。こうした現象は実はリーマンショック時にも起きています。需要低迷が1年以上継続すると、13カ月めからは低水準が基準になるからです。そういう目で下のリーマン VS コロナの対比図をご覧ください。

### 需要別金額の前年同期比リーマンショック時とコロナ禍時の対比



リーマン時 2008年9月を0とし、前8か月 後16か月  
 コロナ時 (今回) 2020年1月を0とし、前8か月、後15ヶ月

船舶・構造物を除き前年同月比は13カ月目からは、上昇し始めていることがわかると思います。昨年5月はさらに需要が下落した月でした。ますますこの傾向が強くなります。見かけの数字にとらわれず、冷静に見ていく必要があります。